

# 初雪山行 赤崩山

杉崎 圭洋

## ■山行年月日:2020年

11月21日～22日

■メンバー 大竹幹衛、大竹尚子  
小沼充範、杉崎圭洋

## ■コースタイム

- 21日 甲子温泉 8:25～猿ヶ鼻 9:30～  
甲子山 10:30～水場 10:50～坊  
主沼避難小屋 12:05
- 22日 坊主沼避難小屋 7:30～分岐 8:  
10～赤崩山 9:50～分岐 11:20  
～甲子山 11:55～甲子温泉 13:  
20

山岳会恒例の初雪山行は、当初、新潟県の粟ヶ岳を予定していたが、日本海側の天気予報が悪く那須連峰の赤崩山に変更となった。

どんよりとした雲が山を覆っていたが明日に向かって良くなる天気予報に期待して出発する。猿ヶ鼻の手前から雪がちらついて来て風も少し出てきた。今日の行程は短いのでのんびり歩きたいが休憩する度に体が冷えてくるので、仕方なくもくもくと歩く。甲子山の山頂もすつと通り過ぎて赤崩山に進路を変え



小雪が舞い始める

尾根を下る。途中水場で水を補給して坊主沼避難小屋に到着した。きれいに整った小屋は快適そのもので、ツェルトを張って皆でゆっくりと寛ぎ、すきやきを腹いっぱい食べて7:00に就寝。その夜は満天の星だった。

翌朝は赤崩山が朝焼けに輝く、昨日さらっと降った雪を踏んで出発する。日差しがあり風もないのですぐに体が温まって来る。甲子山との分岐で余計な荷物をデポして赤崩山を目指して歩き出す。だんだん傾斜がきつくなり、今年の1月に引き返した地点を通過する。その時は低木の上に積もったやわらかい雪が一步踏み出すごとにズボズボぬかって手間取った。今日は滑り易く急斜面で所処苦戦するが、木をつかんでぐんぐん登り山頂に着いた。暖かい日差しの中で白くなりはじめた周囲の山をのんびりと眺めた。

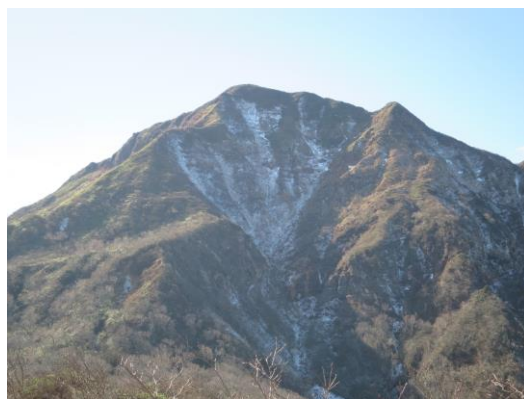


展望を楽しんだ山頂

復路は爽やかな天気でするのがもったいなかったが、あつと言う間に分岐まで戻った。昨日展望のなかった甲子山では大白森・小白森・二岐も良く見えた。

最後のつづら折れも効率的に下って甲子温泉に着いた。

昨年同様、大黒屋で汗を流す。前回は冷えた体がぬるいお湯でなかなか温まらず苦勞したが、今日の氣候だこの湯加減もありかなと思った。



甲子山より旭岳を望む



## 金丸山

齋藤 美和子

- 山行年月日:2020年11月22日
- メンバー:齋藤美和子
- コースタイム:三条部落跡 8:05～霧来沢 8:30～稜線 662m 9:30～山頂 12:00-12:10～稜線 662m 13:45～霧来沢 15:00

金丸山は、金山にある。以前から登ろうと思っていたが、なかなか、叶わなかった。沢から詰めるには、たぶん厳しすぎる。一人ではいけない。稜線を写真にとり、尾根伝いはどうかなと思っていた。傾斜の急なところがあるので、ロープが必要かなと思った。三条部落跡から

沢を渡り登ることにした。沢靴とロープ準備。三条部落あとの近くに駐車。部落から沢に降りる。沢がそんなに浅くなかった。しかも、結構水量があり、幅もあった。冷たいので濡れたくない。別の所は？と探すが、少し上流で、何とかなるようなところを見つける。でも、たぶん膝上だ。水が冷たい。どうしようと逡巡するが、せつかくここまで来たのでエイと渡った。腿までぬれたが、まあいい。渡れた。杉林に入る。下草がなく歩きやすいが、直ぐに終わり尾根に向かう。尾根に乗ると踏み跡。藪は薄い。ブナが美しい。登って行くと尾根が不明瞭になる。傾斜は急であるが、葉が落ちて全体像がよく見える。左から尾根が合わさる。稜線に乗ると、方向が変わり、イヌツゲとモチノキのお出向かえ。でも、なんとなく踏み跡がある。これを見つけないが進む。稜線は黒松の峰と、ところどころにイヌツゲとモチノキとシャクナゲの藪。両側は切り立っている。狭いぎりぎりのところもあったが素晴らしい景色であった。岩も出てきた。緊張して渡る。疲れたが、藪を越していくとやっと山頂。山頂は何もない。景色も見えない。リンゴを食

べて水を飲んで、おにぎりは1個しか食べられなかった。少し左足が攣った感じ。でも、まあいいか。ゆっくり下る。迷いやすいところは赤テープを貼ってきた。2回尾根を間違えたが、戻ってテープを見つけてほっとして下る。帰りは楽であった。シャクナゲが咲いているのを見つけた。あっという間に、渡渉点。全くためらわず渡れた。ああいい気分。冷たくない。腿までぬれたけど大丈夫。ここをまっすぐ登るとすぐに林道であった。ロープは使用しなかった。この山は、名前がついている。たぶん、三条の人がこの山を歩いていたのだろうか。だから、踏み跡が少し残っていたのだろうかと思われた。やっとなんて、登れました。満足しました。



霧来沢の渡渉点

